

伝法のかんかん堂

伝法滝下（伝法一丁目）の、もと鎌倉街道といわれた道路ぎわにかんかん堂と呼ばれるところがあります。

このお堂に彼岸の中日にお参りすると、どんな病気でも治るといわれ、昔は大勢の人がお参りをしたそうです。今は、お堂はありませんが、大きな題目碑三基と芭蕉の句碑が建てられています。

石でたたくと「カンカン」

かんかん堂は、地元の豪族後藤六左衛門という人の弟^{あに}惟善^{よし}が、善入庵^{ぜんにんあん}というお堂と三基の題目碑を建てたところでした。

昭和五十九年十一月五日号



三つ並んでいるまん中の題目碑を小石でたたいたり、小石を投げつけたりすると、不思議なことにこの碑だけが、カンカンという金屬的な音を立てます。そんなことから、かんかん堂と呼ばれ、地域の人々に親しまれています。

昔、このお堂が古くて壊れそうになったので、村人が再建しようと、仕事に取りかかったところ、土の中からすべすべした浜石がたくさん出てきました。その石全部に経文が書かれていました。

そこで、村人は穴を掘っていけ、上に大きな石をかぶせておいたということです。カンカンという音は、お経の響きだったかも知れませんね。

今は音がしなくなつた

古郡国雄さん（伝法）

かんかん堂のすぐ隣に住む、古郡国雄さんは、「この辺はね、子供の遊び場で私もよく遊んだもんだよ。今は碑の下をコンクリートで固めてあるもんで音はしないけど、本当に



かんかん堂

「カンカンと音がしたね」と話ってくれました。